

美郷町商工会・美郷町企業連携協議会 新入社員の集い

3月27日に、この春町内企業に入社する14事業所30名と関係者などが出席し、名水市場湧太郎で新入社員の集いが開催されました。主催者である美郷町商工会の近藤道哲会長と美郷町企業連携協議会の檜森吉裕会長による激励のあいさつに続き、新入社員を代表して細井楓季さんが「入社する企業はそれぞれ異なるが、美郷町とともに汗を流し、ともに困難を乗り越えて、企業の繁栄と地域社会の発展に貢献したい。社会人として成長できるように、決意を新たに日々精進していきます」と抱負を述べました。

式典終了後には研修会が開催され、北都銀行ビジネスサービス部の時田悦子さんからあいさつや言葉遣いなどのビジネスマナーについて学びました。



自慢ののどと踊りを披露 第26回全県素人うたとおどりの 美郷フェスティバル2015

3月29日に美郷町南体育館で第26回全県素人うたとおどりの美郷フェスティバル2015（同実行委員会主催）が開催されました。今年も県内各地から多くの参加があり、予選を勝ち抜いた総勢60名が「カラオケの部」「新舞踊の部」「民謡の部」の3部門で自慢の「うたとおどり」を披露しました。町内の受賞者は次のとおりです。

【新舞踊の部】 第 3 位 高橋栄子さん
審査員特別賞 高橋律子さん



合併10周年記念事業 美郷町合併記念タイムカプセル開封式

3月29日に、美郷町合併記念タイムカプセル開封式が行われました。このタイムカプセルには、10年前の平成17年2月13日に町内7小学校の児童が、10年後の自分たちへのメッセージを込めて制作した作品を投入していました。

開封式には当時の各小学校の6年生から代表者が集まり、10年の時を超えてタイムカプセルを開封しました。旧六郷小学校代表の加藤将人さんは「10年後の自分へ当たったメッセージと対面し、思い出に浸るだけではなく、当時思い描いた未来像と現在を比較したい」とあいさつを述べ、懐かしい仲間と今後の飛躍を誓い合いました。



ご長寿 おめでとうございます 小林アサノさんが満100歳に

4月5日、満100歳の誕生日を迎えられた小林アサノさんのもとに松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

嫌いな食べ物はなく、なんでも食べるといふ小林さんは、ビールが好きで毎日一杯飲んでいるそうです。今まで大きな病気も入院もしたこともなく、健康で元気に過ごされています。

週に1回利用している町の生きがいデイサービスが何より楽しみだとのことで、デイサービスでもらった誕生日カードをうれしそうに見せてくださいました。

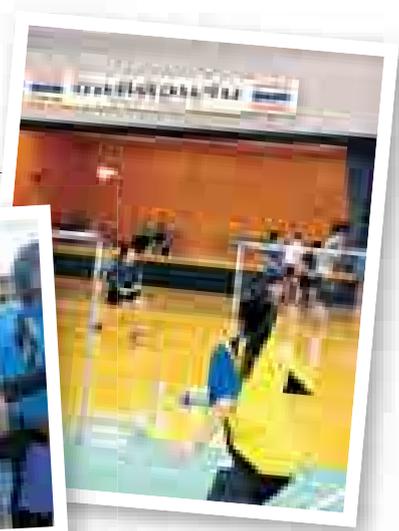




タイ王国ジュニアバドミントンチームが来町

4月9日から12日にかけて、タイ王国のジュニアバドミントンチームの選手10名が来町し、4月1日にオープンした美郷町宿泊交流館「ワクアス」で合宿を行いました。

合宿に併せて、秋田県内や県外からトップレベルの選手が集まり、総合体育館リリオスで試合形式の練習が行われ、練習を見学した美郷中学校のバドミントン部も、そのレベルの高さを肌で感じていました。



価値観と共感

美郷町長 松田知己



美郷町宿泊交流館「ワクアス」オープニングセレモニーであいさつを述べる松田町長

風

「痺れる文章」。誰しもが出会ったことがあると思います。私もあります。どこかの講演で話したことがあります。私が初めて痺れたのは、某飲料メーカーの一文。「破れた恋と空き缶はくずかごへ」。広告用コピーでしたが、多感な高校生時代です、シビレました。（実体験もあつたりして？）

また、大人になってからの痺れる文章の筆頭は、脚本家倉本聰さんの文章。富良野塾の起草

「痺れる」核心に存在するのは、文章を生み出した「価値観」に対する共感です。その共感の状況によって、人はある時は痺れ、ある時は涙し、そしてある時は行動するのだらうと思います。改めて、情報を発する側の共感性ある価値観、あるいは受け取る側の感受性について考えるところですよ。

実はこうした思索めいたことは、行政に携わる人間は常に考えていなければいけません。と言うのも、「自治」は基本的に

文で、「(略)車と足はどっちが大事ですか/石油と水はどっちが大事ですか(略)理屈と行動はどっちが大事ですか/批評と創造はどっちが大事ですか(略)」。今読んでも痺れる文章です。

施策等に対する共感で成り立つと思うからです。そして、その延長に信頼が生まれてくると思うからです。その意味で私をはじめとする町職員は、思慮深く物事をとらえ、共感性を意識する一方で、迎合主義的なその場凌ぎは可能な限り排除し、確かな価値観で企画立案・実践していくことが求められるのだらうと思うところです。

そして今月、そうした観点で思慮した取り組みの一つ、北海道中富良野町との連携協定を締結します。町のラベンダー「美郷雪華」を介しての交流を幅広く進めたいと思います。他地域との交流で生まれる地域振興の可能性は、ある意味で無限です。例えば美郷雪華のルームフレグランスや美郷雪華酵母の日本酒、その酒粕利用の商品などは、展開によっては大化けの可能性もあります。そうした可能性は、未来に向けた希望そのものです。交流に包含される可能性、そしてそれを大切にしている価値観に、どうかご理解ください。